

社会教育



令和6年度ビブリオバトル福島県大会表彰式

CONTENTS

- ◆ 特集.....1、2
「第五次『福島県子ども読書活動推進計画』」
- ◆ 論説.....3
「第五次『福島県子ども読書活動推進計画』と読書の環境
国立大学法人福島大学名誉教授 高野 保夫 氏
- ◆ 輝け社会教育.....4~12
渡部 キヨ子 氏（南会津町）
遠藤 百合江 氏（相馬市）
福島市渡利学習センター
いわき市立植田公民館
須賀川市立西袋第一小学校教育活動後援会
南会津町立荒海中学校父母と教師の会
福島県立会津第二高等学校父母と教師の会
檜葉町こども園・学校運営協議会
常葉幼稚園・小中学校学校運営協議会（田村市）
平田村立ひらたこども園
飯館村立までの里のこども園
郡山市立朝日が丘小学校
福島県立会津第二高等学校
本宮市立しらさわ夢図書館
心に虹のおはなし会（喜多方市）
学校法人成田学園希望ヶ丘こども園（郡山市）
喜多方市立塩川中学校
- ◆ 令和6年度社会教育関係各種受賞者.....13
令和7年度福島県社会教育施設行事予定.....13



第五次「福島県子ども読書活動推進計画」

基本理念 「ふくしまの未来をひらく 読書の力」

福島を未来をひらくすべての子どもが読書の楽しさを実感し、生涯にわたって望ましい読書習慣が確立できるよう、学校、家庭、地域がそれぞれの役割や責任を明確にし、社会全体で子どもの読書活動を推進します。

基本方針

基本方針 1 子どもが読書に親しむ機会の充実のために

子どもたちが読書の楽しさや良さを実感するためには、発達段階に応じた本との出会いの場の提供、読み聞かせや読書に親しむ機会の拡充が必要になります。そのため、乳幼児期から家庭を原点として、学校や地域等において本に親しむ機会の充実を目指します。

また、子どもが生涯にわたって望ましい読書習慣を身に付けることができるよう、幼稚園、保育所、認定こども園、小・中学校（義務教育学校を含む。）、高等学校、特別支援学校において、それぞれの発達段階に応じて読書活動の推進に向けた特色ある切れ目のない取組が展開されることを目指します。

基本方針 2 子どもの読書環境の整備と充実のために

子どもたちが、あらゆる機会とあらゆる場所において読書に親しむことができる環境の整備の推進を図ります。また、公立図書館や学校図書館等の機能の充実や子どもの読書活動を支える人材の確保や資質向上と更なるネットワークの構築を図ります。そうしたことを踏まえ、学校、家庭、地域、関係機関、団体等が連携・協力する体制を構築し、子どもの読書活動の推進に向けた環境の整備を進めます。

基本方針 3 子どもの読書活動についての理解の促進のために

子どもの読書活動の推進のために、読書活動の意義や重要性についての理解を広く普及させるための取組や広報を充実していくことが必要です。

そこで、子どもの読書活動の重要性について理解が深まるよう、実践事例等の情報提供や、優れた取組の奨励等、より一層の普及啓発活動に努め、県全体として子どもの読書活動の推進が図られることを目指します。

計画期間

本計画は、国の新たな第五次「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」を基本とし、第7次福島県総合教育計画の内容とも関連させながら、おおむね5年間で計画期間とします。

「子どもの読書活動推進の取り組みについて」

【学校種間の切れ目のない連携 ～平田村幼小連携事業・読書交流と学校図書室探検～】

平田村では、文部科学省で推奨している「架け橋期プログラム」として、幼小連携事業に取り組んでいます。こども園の園児と小学校児童との交流の際には、読書交流や小学校図書館の訪問などを行い、切れ目のない読書活動について取り組んでいます。



幼小交流の機会に、小学生と園児と一緒に絵本を楽しんでいる一コマです。同じこども園出身ということもあって、自然と一緒に絵本を手にして読む様子が見られました。



小学校2年生が園児に読み聞かせをする、幼小交流の一コマです。読んでもらっていた子どもたちが、小学生になり読む側になりました。

【特別支援学校における読書活動の取り組みについて】

- 図書資料や読書環境整備の充実
 - ・ 点字図書や大型絵本、布絵本、紙芝居、パネルシアター、マルチメディアデージー図書等のバリアフリー図書の整備を推進します。
 - ・ 計画的な図書の整備や書架の配置、図書コーナーの工夫等、環境整備の充実を促します。
- 移動図書館等の活用
 - ・ 児童生徒の興味関心に応じた読書ができるよう、公立図書館の移動図書館等での貸出やおはなし会などを活用し、本に親しむ機会を提供します。
- 幼児や児童生徒の発達や障がい等の状況に応じた多様な読書活動の推進
 - ・ 読み聞かせ、ブックトーク、ストーリーテリング、バリアフリー図書の体験等、多様な読書活動の実施を推進します。
- 読書支援の推進
 - ・ 学校が読書ボランティアと連携し、図書の貸出の活用や読み聞かせ、ブックトーク等の読書活動を通して、様々な図書に触れる機会の充実を図ることを促進します。
 - ・ 障がいの種類や程度、特性に応じた読書支援ができるよう、県立図書館や知事部局関係各課との連携により専門的な研修や資料に関する相談等の実施を推進します。

石川支援学校 小学部



絵本を題材にひらがなの学習に取り組んでいます。

たむら支援学校 小学部



田村市図書館読み聞かせボランティアによる『おはなし会』との学習の様子。



第五次「福島県子ども読書活動推進計画」と読書の環境

福島県子ども読書活動推進会議委員長

高野

福島大学名誉教授

保夫



令和7年度から第五次子ども読書活動推進計画がスタートする。第四次の「読書に親しむ機会の充実」などの3つの基本方針を維持し、支援が必要な子どもたちの読書機会の確保、デジタル社会への対応などの観点も含めて、子どもの豊かな読書環境を整備する積極的な取組みが望まれる。

子どもの発達段階に見合った本が、身近に果たして十分に準備されているのだろうか。文部科学省は、令和4年度から第6次「学校図書館図書整備等5か年計画」を推進し、学校図書館蔵書等の更新を図っているが、地方財政措置の関係もあり、学校だけでなく公共図書館も含めて、読書環境の実態は十分に整っているようには思えない。学校図書館蔵書の充実だけでなく、本の案内役の学校司書の不足問題の解消にも真剣に対応し、現状の改善を図りたい。

その中であって、学校図書館蔵書数の不足分の補充は、現在進行中の県立図書館から学校図書館への蔵書・資料等の支援貸出、あるいはサポートセット貸出などの事業が行われているが、学校等が積極的に利用しやすい環境整備にもぜひ注力してほしい。園や学校の指導の現場においては、絵本の定期的な読み聞かせ、読書タイムの設定、書評合戦、図書館イベントの開催など、読書に親しむ環境づくりに向けた多様な取組みが進められている。ふだんの子どもの読書活動の様子が、保護者や家庭に向けてつねに広報されることが必要であろう。その際、情報が園・学校からの一方通行ではなく、保護者との双方向の対話となるように留意したい。周囲の関係者の親和的な環境の中でこそ子どもたちは安心して本に親しめるし、読書への意欲も高められていく。

公共図書館はより豊かな読書環境づくりに向け、どのような役割をもつのだろうか。ある市立図書館の「図書館まつり」が先日開催されたが、楽器の演奏、おはなし会、動く絵本の上映会、大人向けの朗読会など、魅力ある内容であった。驚いたことには、物語の世界に一喜一憂している子どもたちはもとより、1600名を超える幅広い世代の人々が「まつり」に参加していたことである。

この事例を通し、市町村立図書館が地域社会を動かす影響力の大きさと同時に、AI時代と読書との共存のあり方、読書離れの若者の社会的、心理的な背景などの課題を深める可能性も、企画次第では無理ではないことを示唆しているように思われる。第五次計画での新たな取組みに期待したい。

プロフィール 高野 保夫 氏

- ◇ 1989年 福島大学教育学部教授
- ◇ 1997年 同 附属教育実践総合センター長
- ◇ 2009年 福島大学名誉教授
- ◇ 2013年 伊達市教育委員会教育委員長

■ 専 門 国語科教育学

■ 著 書 『21世紀の教師教育を考える』

(共編著、八朔社)ほか



令和6年度社会教育功労者 文部科学大臣表彰を受賞して 地域家庭教育推進南会津ブロック会議 議長 渡部 キヨ子 氏（南会津町）



平成24年の「地域家庭教育推進南会津ブロック会議」立ち上げ時から委員となって今年で12年目、議長として8年目を迎えます。本会は家庭教育支援や青少年健全育成等に関わる地域団体の長等で構成する委員22名が、互いに情報を共有しながら、対話と学び合いを大切に協賛を通して南会津の家庭教育推進と地域教育力向上に向けた諸活動を行っています。協賛だけでなく、時には家庭教育事業に参加することもあります。自然の中で親子が触れ合い、生き生きと楽し

そうに活動する姿や、家庭教育講話において活発に意見交換し合う親の姿を見ることができました。これらの活動で学んだことが、各学校、各家庭で継続実践され、より多くの家庭に広がり、南会津の家庭の教育力向上、推進に繋がればと願っています。この度の受賞は、委員の皆様をはじめ、社会教育活動で出会った方々のご指導・ご支援によるものと、厚くお礼申し上げます。ありがとうございました。

令和6年度社会教育功労者 文部科学大臣表彰を受賞して 元相馬市社会教育委員議長 遠藤 百合江 氏（相馬市）



【記事内容の要約形式】

遠藤百合江さんは、平成15年から平成29年までの約14年間、相馬市の社会教育委員として議長を務め、その役割を通じて社会教育事業の推進に尽力しました。東日本大震災の影響により厳しい状況にあったにもかかわらず、生涯学習の重要性を訴え、震災後の復興に向けた具体的な助言や市民団体の支援策について積極的に発言し、社会教育の再生に寄与しました。また、相馬地区社会教育連絡協議会では副会長や会長としての役職を歴任し、地区の社会教育の発展や研修会の企画に力を尽くしました。更に、女性の自主的な課題解決を促進するため、「女性の未来を考える会」を設立し、副会長としても活動しました。役職を退いた後も、地域の女性教育を支援する活動を続けています。

さらに、福島県で行われた全国公民館研究会や東北地区社会教育研究大会などにおいて、受付業務などの裏方としても積極的に参加し、地域の社会教育振興に貢献しています。その功績が認められ、平成24年から平成28年にかけて、複数の表彰を受けています。社会教育への情熱と貢献は模範的であり、相馬市のみならず、地域や県全体の社会教育の振興に顕著な影響を与えてくださりました。この度の受賞を機会に、遠藤さんにお話をお聞きする機会が先日ありました。遠藤さんは、「長きにわたる社会教育に関する活動を通して、市民の皆さんとのつながりをたくさん持てたことが一番の思い出。」と語ってくださいました。そして最後に、「社会教育の活動は面白く、勉強になり、人間の幅が広がるものだ。」と教えてくださいました。



第77回優良公民館文部科学大臣表彰

福島市渡利学習センター

渡利学習センターは、旧館時と同じ敷地内に令和2年11月に新築されました。特色ある事業を推進するために、地域に人材を求め、地域と一体となって運営する事業を令和5年度から開始しています。

具体的には、『わたり青空図書館』、『ぶらっと談話室』、『体験入門講座』など、人と人をつなぐ事業を実践しています。特に、『わたり青空図書館』では、月1回、センターと運営委員会の共催により12時から15時まで、寄付された本を展示して、主にエントランスホールを会場に開催しています。寄付は月500冊程度あり、細かな分類はせず、本を探す楽しみ、出会う喜びのため意図的にランダムに配置し、一人10冊まで無料持ち帰りと無期限貸出をしています。



昼の時間帯には楽器の演奏、民謡、マジック、古着物リメイクファッションショーなどのミニイベントや紙芝居の実演などを実施しており、毎回50人ほど訪れます。出会いと学びの拠点として、地域の皆さんに認知してもらえるように工夫しています。

これからも、渡利学習センターが、学びをはじめ、学習センターが地域の”止まり木”として、心地よく、安全で、安心し、便利に利用できる場所であるために、環境づくり・雰囲気づくりに努め、人と人をつなぐ役割を担っていきたいと考えています。



第77回優良公民館文部科学大臣表彰

いわき市立植田公民館

植田公民館は、利用者の減少や高齢化、講座の固定化といった課題に加え、新型コロナウイルス感染症の影響でオンライン化が求められる中、ICTを利用して公民館機能の強化を図りました。具体的には、1動画の活用、2オンライン講座の導入です。

1 動画の活用

サークル活動の動画を作成し、いわき市公式動画チャンネル上に公開しております。また、市民講座の開催の様子を動画に記録し、受講生が講座の内容をイメージできるよう編集公開するとともに募集案内に活用しています。



2 オンライン講座

Zoomを利用して、首都圏等遠方に在住する講師と、司会役の植田公民館及び在宅の受講生間をオンライン接続し、市民講座を開催しています。なお、デジタル機器に不慣れな高齢者層が公民館利用者の大半を占める実態も踏まえ、受講形態は、植田公民館会場（大型スクリーンで受講）または、自宅でのオンライン参加の選択制としました。これらの取り組みにより、サークル活動の活性化や講座申込者の増加、講座企画力の向上、講座開催形態の多様化が実現しました。今後も、講師・受講生間あるいは、受講生間のやり取りが多い参加型・体験型講座や質の高い講座の受講機会を提供しようと考えております。



令和6年度優良PTA文部科学大臣表彰

須賀川市立西袋第一小学校教育活動後援会

この度は「優良PTA文部科学大臣表彰」という大変栄誉ある賞をいただき、ありがとうございます。本校教育活動後援会は、多くの保護者が児童の教育活動を支えていけるよう組織しています。学年親子行事・奉仕作業・登下校ボランティアなど、保護者が

できる範囲で自主的に参加できるよう計画・推進しています。さらに近隣の西袋第二小学校と連携して、

PTA自主事業を毎年開催しています。「逃走中 in 西一小」は、本部役員を中心に準備から当日のハンター役まで保護者と学校、中学生ボラン



ティアの協力を得て、10年以上にわたり子どもたちを楽しませてきました。今年度は「N.フェスティバル in 西一小」を開催し、児童・PTA会員・中学生ボランティアの総勢480名が集いました。

今回の受賞は今までPTA活動を推進してくださった



諸先輩をはじめ、多くの保護者や先生方、地域の皆様の協力の賜物です。感謝を忘れず、これからも多くの皆様と協力し、児童の健全育成に努めてまいりたいと存じます。

令和6年度優良PTA文部科学大臣表彰

南会津町立荒海中学校父母と教師の会

この度、栄えある「優良PTA文部科学大臣表彰」を受賞させていただき、大変光栄に思っています。これもひとえに歴代PTAをはじめ荒海地区の保護者、地域、教職員の皆様のご理解とご協力の賜です。この場を借りまして、改めて感謝申し上げます。

さて、荒海中学校では「人間教育の根幹は心にあります」

の理念の下、具体像を「ななもりの心」として、「人にあたたか、さわやかな心」や「明日を拓こうと努める心」等5つの大切な心に定め、教育の柱としてきました。そのシンボルとして校舎東側斜面に約40m四方の草文字「心」を刻み、理念・シンボル共に地域の心の支えとして脈々と受け



継いできました。この理念を達成するために、「PTA除草作業」として全保護者、生徒、教職員で行う草文字「心」の除草作業や、「避難の家活動」として避難の家を引き受けてくださった家庭に保護者、小・中児童生徒、教職員で挨拶回りに行く地域訪問などのPTA活動を行い、子どもたちの健全な「心」の育成のために努めてきました。

今回の受賞を励みとし、先人への感謝の思いを忘れず、今後も地域全体で「心」豊かな生徒の育成のために、学校の教育活動を支えていきたいと思ひます。





令和6年度優良PTA文部科学大臣表彰

福島県立会津第二高等学校父母と教師の会

本校は、「働きながら学び、自己実現を目指す」ことを教育目標とする、会津地域唯一の夜間定時制高校です。小規模校ゆえ、保護者と教職員、そして同窓生の協力も仰ぎながら、これらの三者が一丸となって日々の教育活動を実践しています。本校の地域に根ざした長年の教育実践に対して、文部科学大臣表彰をはじめ、会津若松市教育委員会から令和6年度特別教育功労賞もいただきました。

生徒達は地域の店舗、地元企業で昼間は働き、夜間に「高校生」として学ぶというハードスケジュールを送っているため、学校行事においては保護者、教職員、同窓会、学校評議員が一緒になって、生徒とともに参加・運営して、創意工夫に満ちた教育活動を展開しています。生徒主体の昼間の行事として「地域連携ボランティア活動」(鶴ヶ城址の清掃)、保護者主体の夜の行事として「夜空のく



つろぎタイム」(保護者と養護教諭・SCが子育ての悩みを自由に語り合う)等を毎年開催してきました。特に昨年度は県内定時制高校初の創立80周年を迎え、保護者・教職員・同窓会の三者連携で準備を重ね、生徒による司会で思い出に残る記念式典、記念講演会を挙行できました。

今年度からは更なる新しい歴史を紡ぐべく、校長のリーダーシップのもと「チーム二高」「二高ファミリー」を合言葉にスタートし、保護者(全員PTA役員)と全教職員とで、生徒が輝く「自己表現」の場面を作り、生徒一人ひとりの「自己肯定感」の醸成を図り、4年後の本校卒業時には全生徒が「自己実現」を成し遂げ、地域社会に貢献できる人材となりうるように、次の90周年を目指して、これからも少人数教育ならではの「人財」育成を心がけていきます。



令和6年度

「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進」文部科学大臣表彰 優秀賞

楡葉町こども園・小中学校運営協議会 楡葉町地域学校協働センター

この度、文部科学大臣表彰 優秀賞を受賞することができましたのは、県内外の実践者の皆様のおかげであると考えております。楡葉町では令和4年度から協働センターを設置してCSと協働活動とを一体的に推進し、被災地域コミュニティの復興・創生を目指して取り組んできたわけですが、学校教育だけでなく、あらゆる社会教育活動を通じて地域と子どもたちとを結ぶにあたって、多くの先進事例を活動に取り入れたり、参考にしたりしてきたからです。



今回、町の中学生在が全国の代表として国のフォーラムに参加しますが、学習者の主体性が重視される現代において、町ではこれまで、CS

(教育トーク)を通して子どもたちが自分たちの教育環境等について直接語れる文化を形成するとともに、子どもたちの自己実現の場として、自由度の高い社会教育の機会を活かすことを推進してきました(探究トライアル等)。それらにより、全町避難を経た子どもたちも楡葉という地域に愛着をもち、地域づくりに積極的に参画するようになってきています。



次年度は防災まちづくりをテーマに、子どもたちが考案した能登での活動やこども消防団などの新規の活動も展開する予定です。福島だからこそできる質の高い子どもの社会教育の持続的な展開を目指していきたいと考えています。



輝け社会教育

令和6年度

「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進」文部科学大臣表彰

常葉幼稚園・小中学校運営協議会 田村市地域協働本部

この度は栄えある「文部科学大臣表彰」をいただき、誠にありがとうございます。田村市はすべての小中学校にコミュニティ・スクールがあり、地域コーディネーターが毎月1回の情報交換会を開催し、地域と学校の関係性を深めています。今年度常葉中学校区では複数回の熟議(テーマ例:子育てあるある)を開催し、学校、地域、保護者同士で子育てのことを語ることでできる場づくりに努めてきました。来年度も学級懇談会や保護者会等あらゆる機会を活用し、気軽な対話から信頼関係を深めていくつもりです。



また、本校区は「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進」に加えて「幼小中一貫教育の推進」が同時期(R2~)にスタートいたしました。学校運営協議会委員の皆様にも幼小の架け橋プログラムや小中教員の、乗り入れ授業及び合同授業研究会についても参観の上、ご意見をいただきながら進めてまいりました。まさに「三位一体的推進」の取組です。これからも今回の受賞を励みに子どもと周囲が共に「幸せ感・充足感」を持てる学校づくり・地域づくりを目指していきます。



令和6年度

子供の読書活動優秀実践校・園・図書館・団体(個人)文部科学大臣表彰

平田村立ひらたこども園

村内こども園2園が統合し新しく開園した「平田村立ひらたこども園」は、開園5年目を迎えました。そしてこの度、令和6年度子供の読書活動優秀実践園として、名誉ある文部科学大臣表彰を受けることができました。今年度より幼児教育施設が表彰の対象として拡大され、その初めての年に選ばれたこともあり、大変うれしく感じています。ひらたこども園では読書活動の柱として「家読」を推進し、家庭への絵本の貸し出しを行い、乳幼児期からの家庭における読書活動を支援しています。文字の読めない乳幼児期の子ども達にとって大人のかかわりは不可欠



であり、家庭で読書に取り組む時間が親子の触れ合いの時間になってほしいと強く願っています。また、子ども達が本と出会うためには読書環境の充実も大切です。ひらたこども園にはエントランスに続く広大な読書スペース「えほんのもり」があり、そこで絵本と触れ合い、感じたことや想像したことを思い思いに言葉にしながら過ごす時間は、安らぎや冒険心であふれています。子ども達が当たり前絵本を手にして、その世界観を味わい、あたかも自分が体験したかのような楽しさや喜びを積み重ねていく経験をこれからも大切にしていきたいと思っています。





令和6年度

子供の読書活動優秀実践校・園・図書館・団体(個人) 文部科学大臣表彰

飯館村立ままでの里のこども園

飯館村は、全村避難を経て、平成30年に教育機関が村内に戻り、今まであった保育所と幼稚園を統合し、認定こども園「ままでの里のこども園」を開園しました。

本園では、「作家とのふれあい活動」「絵本タイム」「親子読書の啓発」「絵本の貸し出し」「保育の中での絵本活用」などの読書活動を行っています。

その一つ、絵本に触れ合う取り組みとして義務教育学校の児童と一緒に「移動絵本タイム」、3歳以上児が自分のおすすめの絵本を選び、みんなの前で読み聞かせを行う「合同絵本タイム」などを行っています。



「絵本タイム」を様々な形で行ってきたことで、子ども達は絵本を身近なものに感じています。また、絵本の読み聞かせの中では、物語の内容を想像したり、それを表現したり、子ども達の言葉感覚や語彙も豊かになっています。

そのほか親子読書の啓発にも力を入れており、「絵本専門士による講演」「読み聞かせ講座」などに取り組んでいます。職員が子ども達のために一丸となって考え進めてきた一つ一つの活動が、確かな成果を生み、今回の受賞につながったものと考えています。

今後も子ども達が豊かな世界を生み出せるような読書活動を積極的に行っていきたいと思えます。



令和6年度

子供の読書活動優秀実践校・園・図書館・団体(個人) 文部科学大臣表彰

郡山市立朝日が丘小学校

本校では、令和3年度からの3年間にわたり、「友達と学び合い、豊かな言語活動を通して確かな学力を身につける児童の育成～学校図書館を活用した授業づくり～」の研究主題のもと校内研究を進めてきました。その研究の柱は、「読書指導」「情報活用」「図書館運営」であり、授業研究だけでなく、学校教育の中での図書館の果たす役割についても研究を推進してきました。

そして、令和5年度は、郡山市を会場に、第41回東北地区学校図書館研究大会が開催され、授業提供校として低・中・高学年で各1学級ずつ授業を公開し、多くの方に参観していただきました。こうした取り組みが評価され、令和6年4月に文部科学大臣表彰を受賞することができました。「図書館運営」の取り組みをいくつか紹介します。



- 読書に親しめる図書館展示やユニバーサルデザインを取り入れた分類や配架
- 各学年や教科の学習に関連させた学習コーナーの設置
- ICT機器および学習支援アプリを活用した各種イベント等の情報共有
- 保護者ボランティアや図書委員による読み聞かせ活動
- マスコットキャラクターの募集や昆虫の実物展示、カルタ大会などの各種イベント

こうした取り組みの成果として、「本が好き」「図書館が好き」という子どもたちが増え、学校図書館が本を読む、借りるだけの場所ではなく、子ども達にとって学校生活に潤いを与える居場所の一つになっています。





令和6年度

子供の読書活動優秀実践校・園・図書館・団体(個人) 文部科学大臣表彰

福島県立会津第二高等学校

本校は、定時制高校として創立81年という県内最古の歴史と伝統を有し、1年生から4年生まで、全校生徒15名が在籍しています。年齢も16歳から24歳までの多様な生徒たちが、昼間の仕事を終えて、給食を食べて図書館や教室でくつろぎ、夜間に学んでいます。小規模校というスケールメリットと、様々な背景の生徒達というダイバーシティを活かして、生徒と教員の距離も近く、今年度からは「二高ファミリー」「チーム二高」を合言葉として、日々の学校生活を過ごしています。

現在は、小中学校で不登校だった生徒が「変わりたい」という思いで入学しており、アルバイトを経験したり、運転免許を取得することなどで社会への接続を果たしています。そして、一日4校時の授業で、4年間という期間の中でじっくり学んで読書活動をして、各種資格取得を目標としながら、社会で通用する「人材」育成をしています。



仕事という社会経験と定時制というカリキュラムを通して、生徒達は中学校時代とは見違えるほどの「成長」を見せ、皆勤で高校生活を送っている生徒もいます。

小中学校時代に家に引きこもっていた間に、多くの本を読んでいた国語力が高い生徒が多く、今回の文部科学大臣表彰をはじめ、毎日新聞主催の全国青少年読書感想文コンクールで県代表として、全国5位入賞を果たす生徒もおり、長年の定時制ならではの読書推進活動の成果が現れています。元教室の温かみのあるリフォーム図書館はもちろん、昨年度から全教室にソファとギターを設置し、居心地の良い学習空間を作っています。職員・生徒全員での選書活動を実施し、各教室にコンテナボックスで移動式図書館を実現するなど、今後も日々チャレンジとアイデアで創意工夫しながらの読書推進活動を展開していきます。



令和6年度

子供の読書活動優秀実践校・園・図書館・団体(個人) 文部科学大臣表彰

本宮市立しらさわ夢図書館

本宮市立しらさわ夢図書館は、平成9年の開館当初から子ども時代の読書の重要性を重視し、子どもの発達段階に沿った読書支援施策を計画的・全市的に展開して参りました。具体的には、乳児期のブックスタート、幼児～児童期のアニメーションやブックトーク・出張おはなし会の開催、読書感想文・画コンクールの開催、調べ学習講座の開催、推薦図書のリストの作成や展示、保育所・幼稚園小中学校への団体貸出しや移動図書館車の巡回、図書館と学校図書館のネットワークシステムの構築と運用など、各教育関係施設とも連携し、多様なアウトリーチサービスをおこなっています。



また、読書活動ボランティアの育成にも努め、毎年「読書活動ボランティア養成講座」や「子ども読書フォーラム」などを行って、市民を対象とした子どもの読書の研修や協力体制も整備されています。このように多様な活動を図書館が主体となって担っている実績が認められ今回の受賞となりました。



尚、当館は平成18年度に同賞を受賞し、平成21年度は図書館のボランティア団体が優秀団体で同賞を受賞しています。県内でも図書館で2度、団体で1度受賞させて頂いたことは大変光栄に思います。



令和6年度

子供の読書活動優秀実践校・園・図書館・団体（個人）文部科学大臣表彰

心に虹のおはなし会（喜多方市）

○設立したきっかけ

平成15年に山都公民館の図書ボランティアのおはなし会から独立し、20年続けてきました。現在会員は9名で、「本はともだち」いい本に出会えることを喜びと思い、読みきかせを中心に、手ぶくろ人形、昔ばなし、エプロンシアターなどの内容で「おはなし会」を開いています。

○読書活動に関する取り組み

月1回の定例会や、春休みと夏休みのおはなし

会に加え、各方面からの要請を受け、訪問によるおはなし会を、山都小学校では朝の読み聞かせ15分を年8



回、山都こども園では（各クラスへ20分ずつ）

年5回、喜多方市立図書館では年8回行っており、このほか、ふるさと山都の文化祭における三歳児絵本プレゼントや、県立博物館でのおはなし会等も実施しています。

○心に虹文庫

山都公民館の一角に「心に虹文庫」を開設しています。平成20年に

「伊藤忠記念財団」による子どもの本購入助成を受け



て発足し、今年も100冊の助成を受け、これにより蔵書数は508冊となりました。蔵書の分類、整理、カードを工夫し、公民館の協力も得ながら、運営しています。

優れた「早寝早起き朝ごはん」運動の推進にかかる文部科学大臣表彰

学校法人成田学園希望ヶ丘こども園（郡山市）

この度本園が「優れた『早寝早起き朝ごはん』運動」で文部科学大臣表彰を受賞させていただきましたことは、保護者の皆様はじめ関係団体の皆様のご理解・ご協力のおかげであると心より感謝いたしております。

本園は平成30年度より毎年「家庭の食生活アンケート」を実施、結果を保護者に公表し、「早寝早起きごはんそして歯磨き」の大切さを伝え続けてまいりました。毎月発信している「園だより」「保健だより」「給食だより」では、園長・看護師・管理栄養士の立場から生活習慣の重要性を伝え、保護者のご理解・ご協力をいただき、今では朝食を食べ歯磨きをしてから登園する園児が多くなりました。「給食試食会」では、毎年多くの親子が、管理栄養士の食育の話



を熱心に聞いています。そ

の他にもふくしま食育サポーターや郡山市食育推進ボランティアによる

「食育教室」、東北歯科専門学校



の学生による「歯の教室」を開催し、親子で楽しく食育や歯の健康について学んでいます。今年度も「福島県良い歯の幼稚園・認定こども園」で優秀賞を受賞することができました。園児は、地域の方々のご協力もいただき、野菜や花の栽培活動もしています。野菜や花の命にふれ大切に育て、食物を大事に食べる気持ちが芽生えて、給食も意欲的に食べるようになりました。

これからも園と保護者が連携・協力し、子ども達の健やかな成長のために活動を続けてまいりたいと考えております。



優れた「早寝早起き朝ごはん」運動の推進にかかる文部科学大臣表彰 喜多方市立塩川中学校

この度、文部科学大臣表彰をいただくことができましたのは、本事業にご支援、ご協力いただいた関係の方々、地域の皆様のおかげであると職員一同、心より感謝申し上げます。

本校は教育熱心な地域の皆様の支援もあり、生徒達は熱心に学習や部活動に取り組む一方で、生活習慣を課題とする生徒が増えてきました。

そこで、本校を基幹校とし、近隣小学校（堂島、塩川、姥堂、駒形）、PTA、学校医とが連携し、市教委と市福祉部局に指導助言いただきながら「生活自己マネジメント能力育成実行委員会」を組織し、睡眠時間の確保・食育・SNS対策を三つの柱とした「早寝早起き朝ごはん推進事業」に取り組んできました。主な取組は次のとおりです。

食育講話をはじめ、塩川地区で実施している「朝の具だくさんみそ汁週間（食育）」を毎月一週間程度継続し、朝食摂取の意識付けを行ってき

ました。この結果、朝食摂取率90%以上を維持し、さらに野菜や具材入り汁物の朝食時摂取率が年々大きく上昇してきています。

次に、生徒会による『塩中生スマルール』です。生徒達自身が自発的に、生徒総会等で啓発する活動を繰り返し行っています。学習時間と睡眠時間の確保を自分達の課題とし、その解決に取り組んでいます。

また、「マイランチデー（自作弁当の日）」を設定し、学校に持参した生徒の自作弁当をタブレットに記録し、まとめています。弁当の準備が「楽しい」と思う生徒が増加し、家族内の役割分担や感謝の気持ちを高めていくきっかけになっています。

この受賞を励みに、今後とも本校の継続事業として、保護者様の協力、関係の皆様のご支援をいただきながら、取り組みを続けていきたいと考えています。



「写真館」令和6年度の社会教育関係事業の様子を掲載します。



チャレンジ!子どもが心みだす体験活動応援事業成果発表会



ふくしまを十七字で奏でよう表彰式



語り部から聞く震災「ふるさとの今と未来」



東北大学社会教育主事講習福島県事前研修会



地域学校協働活動事業推進フォーラム

令和6年度社会教育関係各種受賞者

表彰区分	被表彰者氏名・被表彰団体名	受賞月日	表彰者	
社会教育功労者	地域家庭教育推進南会津ブロック会議議長 渡部 キヨ子 氏(南会津町) 元相馬市社会教育委員議長 遠藤 百合江 氏(相馬市)	2月28日	文部科学大臣	
優良公民館	福島市渡利学習センター いわき市立植田公民館	2月28日		
優良PTA	須賀川市立西袋第一小学校教育活動後援会 南会津町立荒海中学校父母と教師の会 福島県立会津第二高等学校父母と教師の会	2月28日(小・中学校) 8月23日(高等学校)		
コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進	榎葉町こども園・小中学校運営協議会 榎葉町地域学校協働センター 常葉幼稚園・小中学校運営協議会 田村市地域学校協働本部	2月28日		
子供の読書活動優秀実践校・園・図書館・団体(個人)	【園】平田村立ひらたこども園 【園】飯館村立ままでの里のこども園 【学 校】郡山市立朝日が丘小学校 【学 校】福島県立会津第二高等学校 【図書館】本宮市立しらさわ夢図書館 【団 体】心に虹のおはなし会(喜多方市)	4月23日		
優れた「早寝早起き朝ごはん」運動の推進	学校法人成田学園希望ヶ丘こども園(郡山市) 喜多方市立塩川中学校	2月19日		
社会教育功労者	元福島県婦人団体連合会理事 松本 トミ子(小野町) 泉崎村社会教育委員長 古宇田 榮増(泉崎村) 湯川村社会教育委員委員長 菊地 正孝(湯川村)	11月22日		福島県教育委員会
功績顕著な団体・施設	【団体】石川町立野木沢小学校PTA いわき市立豊間小学校父母と先生の会 只見町昔ばなしの会 【施設】二本松市岩代公民館	11月22日		
全国社会教育委員連合	伊藤 尊仁(喜多方市) 田村 弘一(広野町)	10月24日		(社)全国社会教育委員連合会長
日本PTA全国協議会	【団体】いわき市立豊間小学校父母と先生の会 金山町立横田小学校父母と教師の会 【個人】鈴木 崇史(令和5年度会長・令和3、4、6年度副会長) 橋本 洋介(令和5年度副会長・令和3、4年度評議員) 相田 知津子(令和2年度理事・令和3～6年度副会長) 大橋 誠寿(令和元～5年度事務局長)	11月15日		(社)日本PTA全国協議会長
東北地区社会教育委員連絡協議会	佐藤 清二(国見町)、國分 球子(郡山市) 渡邊 貞子(矢吹町)、遠藤 幸一郎(喜多方市) 武島 昭良(相馬市)、塩 陽子(いわき市) 神山 敬章(いわき市)	11月14日	東北地区社会教育委員連絡協議会長	

令和7年度福島県社会教育施設行事予定

福島県立図書館	福島県立美術館	福島県立博物館	福島県自然の家
○「福島を生きる」連続講座と関連展示 ○「福島県文化財センター白河館(まほろん)移動展示」 7/4(金)～8/6(水) ○「福島県歴史資料館移動展示」 10/3(金)～11/5(水)	○THE 新版画展 3/22(土)～5/25(日) ○福島アートアニュアル 2025 6/7(土)～6/29(日) ○金曜ロードショーとジブリ展 7/19(土)～9/28(日) ○竹久夢二展 10/18(土)～12/14(日) ○大ゴッホ展 夜のカフェテラス 2/21(土)～5/10(日)	○ボーダーなき世界を -福島県立博物館とWell-being- 4/26(土)～6/29(日) ○私たちの戦争体験 -アジア・太平洋戦争終戦80年- 7/19(土)～9/15(月・祝) ○発掘ふくしま00 -ふくしま考古学事始め- 10/4(土)～12/7(日)	○郡山自然の家 みどりのオープンデー 5/18(日) ○会津自然の家 はじめてキャンプ 5/31(土)～6/1(日) ○いわき自然の家 春のオープンデー 5/25(日)

編集後記

機関誌「社会教育」345号のテーマは、「第五次福島県子ども読書活動推進計画」でした。基本方針1(2)にあります、「多様な子どもたちに対応した読書活動の推進」が新たに追加され、帰国子女や母国語が日本語でない子ども、障がいや有する子への障がいの特性や状況に応じた支援の整備などが明記されました。社会教育は時代の変化に応じて誰にでも学習機会を提供していくことが求められています。今回の計画を通じて、様々な子どもが読書に触れたいと思ったときに、自分にあった読書の方法を選択することができ、気軽に本を読むことができる、そういった環境が整備されることを願っております。

最後に、お忙しい中、御執筆をいただきました関係者の皆様から感謝申し上げますとともに、読者の皆様がそれぞれの立場でより一層御活躍されることをお祈りいたします。

令和7年3月19日発行

社会教育 No. 345

編集 社会教育課

発行 福島県教育委員会

福島市杉妻町2-16